

つなぐ手ねっと

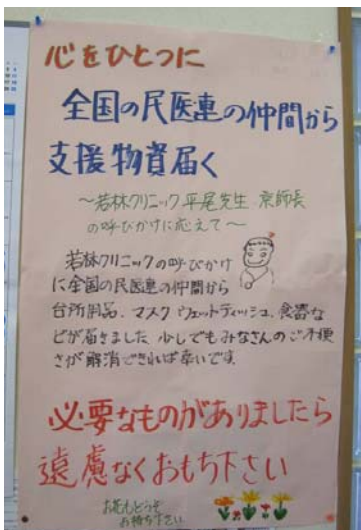
(リハビリスタッフが名付けてくれました。私たち、仲間、地域の復興へ向けた表現です。)

長町・若林地域訪問対策本部発 No.27 2011年4月30日

29日(金・祝日)全国から5名の支援者来てくれました。午前は郡山地区訪問を午後からは若林地帯での健康相談会のチラシ配布を行いました。訪問では、お年寄り同士の励ましあいの場を多くつくることが大切だとの感想がありました。

全国からの支援物資 喜ばれています。!!

若林クリニック(平尾所長)は、全国からの支援物資を待合室に置いてあります。被災された方、避難所生活の方や患者さんが連日、物資を取りに来られています。避難所生活も1ヶ月半が過ぎ、新しく住居を借りた方や仮設住宅への説明会、申し込みが始まってきます。生活用品などが今後ますます必要となってきます。



若林健康友の会とともにクリニックでは、4月30日(土)午後1時より若林クリニック内で健康相談会を実施し、あわせて生活用品もお持ちいただくよう計画しています。

(※支援物資が少なくなりました。台所用品など受け付けています。)

支援レポート

- ・この避難所におられる方は、昔から付き合いがあるのかほのぼのとした空気がありました。JA六郷の中は、毛布がびっしりと敷き詰められ、風通しもよく、気温も上がり寒ささほど気にならないとのこと。訪問した患者さんは津波が迫ってきた様子を写真に持っておられ、「後世に残すために大事にしておく」とおっしゃっていました。ご主人さんは少し逃げ遅れ、近くの電信柱に約8時間もつかまっていて、海水に体がつかっていたようだが、波が少し引いてきた時に自力で脱出したようです。今だから笑って話せるが当時の恐ろしさは計り知れなかったようです。仮設住宅に入れるかどうかも分からないが・・・この先の不安もあるようでしたが、皆さん笑顔でたくさんお話してくださいました。(津田聖香・石川)
- ・友の会訪問(四朗丸地区)で、農家の人が何人かいました。田んぼは無事だけれど、水が引けない状況で田畑を耕すこともできないとのことでした。(水路が壊滅で田んぼに水を引いても出るところがない?) (松田健志・石川)
- ・実際に津波被害を目の当たりにして、恐ろしさを感じました。そこに住んでいる方々はこれからどうするのだろうかなど心配です。海風が強く砂埃がたくさん舞っていました。マスクをしての外出が欠かせません。(玄智子・岐阜)

4月23日から30日まで長町センターに事務局支援に入りました。友の会役員の皆さん、事務局の皆さんありがとうございました。長町・若林地帯訪問対策本部の電話090-6325-7428は4月30日をもって終了します。(武田)

■昨日の行動■ 2011年4月29日(金)

□参加者	5名	累計	689名
			(含む引越し作業69名)
□安否確認	32名	累計	4,509名
□訪問件数	32件	累計	3,994件
□避難所	件	累計	17